

2024年3月13日

「QOL健診 明治安田 × 弘前大学」の全国開催について

明治安田生命保険相互会社（執行役社長 永島 英器）は、2024年4月から、「みんなの健活プロジェクト」^{（注1）}における「明治安田の健康チェック」の一環として、健康啓発型イベント「QOL健診 明治安田 × 弘前大学」を全国で開催します。

当社は、人生100年時代を迎えるなか、お客さまや地域社会に寄り添い続ける会社として、社会課題である健康寿命の延伸やお客さまのクオリティ・オブ・ライフ（QOL）向上に資するサービスの開発・提供に取り組んでおります。

楽しく短時間で全身の健康状態を知ることができ、健康改善のきっかけとなる「QOL健診」^{（注2）}の全国開催を通じて、お客さまや地域社会の皆さまの健康づくりを後押ししてまいります。

（注1）「人生100年時代」を迎え、健康寿命の延伸に対するニーズが高まっているなか、当社が「商品・サービス・アクション」の3つの分野で、「お客さま・地域社会・働く仲間（当社従業員）」の継続的な健康増進を応援する取組み
プロジェクト詳細：<https://www.meijiyasuda.co.jp/brand/kenkatsu/>

（注2）「QOL健診」は弘前大学の登録商標

1. 「明治安田の健康チェック」について

当社は、2019年4月から、“けんしん（健康診断・がん検診等）”受診をきっかけに、予防と健康増進に向けたお客さまの取組みを後押しする「みんなの健活プロジェクト」を展開しています。

本プロジェクトの取組みの一つとして、自治体や道の駅などと協働で、先進的な健康測定機器を気軽に体験し、“けんしん”の重要性を実感することができる「明治安田の健康チェック」イベントを全国で開催しており、2023年4月以来、参加者数はのべ24万人以上^{（注3）}とご好評を頂いております。

この取組みをさらに進めるため、「QOL健診 明治安田 × 弘前大学」を全国で開催いたします。

（注3）2023年9月末時点



【ご照会先】
広報部 広報グループ TEL 03-3283-8054

明治安田生命保険相互会社 〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1

ひとに健康を、まちに元気を。

みんなの
健活
プロジェクト



3. 展開ラインアップと測定項目

測定項目 (提供・機器名)	測定イメージ	測定内容
唾液検査 (ライオン歯科材料株式会社・SMT)		唾液を少量採取、専用の試験紙と測定機器を使用して、歯の健康・歯ぐきの健康・口腔清潔度に関する6項目を測定
推定野菜摂取量 (カゴメ株式会社・ベジチェック)		手のひらをセンサーに置き、皮膚のカロテノイド量を測定。野菜摂取レベルと推定野菜摂取量の二つの結果を表示
血圧 (オムロン株式会社)		上腕で血圧を測定し、動脈硬化、脳卒中などの生活習慣病につながる高血圧のリスクを判定
体組成 (株式会社タニタ)		測定機器に乗り、筋肉量、骨量、体水分量、体脂肪率等を部位別(体幹・上肢・下肢)に測定し、総合的に体の組成を判定
骨密度 (富士フィルムヘルスケア株式会社・超音波骨密度測定装置)		かかとに超音波を当てることで骨密度を測定。同世代や、若年成人との比較により骨粗しょう症リスクを判定
内臓脂肪 (花王株式会社・NAiBO®-eye)		着衣のまま正面、側面の2枚の全身写真を撮影するだけで、独自の推計アルゴリズムに基づき内臓脂肪量をシミュレーション
2ステップテスト		大股歩き2歩分の歩幅を測定し、身長との比率に応じてロコモ度 ^(注4) を判定

立ち上がりテスト		4種類の高さの違う台から両脚、もしくは片脚で立ち上がり、その結果でロコモ度を判定
握力		全身の総合的な筋力と関連すると言われる握力を測定し、年代別の平均値との差により全身の筋肉の程度を評価
生活習慣等に関するアンケート	<p>(回答画面)</p> 	食事、運動、口腔ケア、喫煙、飲酒などの状況から生活習慣を総合的に評価するほか、専門の簡易テスト（CES-D）によってこころの健康度合いも判定

(注4) ロコモティブシンドローム（運動器症候群。体の屋台骨（骨、関節、筋肉）の衰えにより立ったり歩いたりする能力が低下すること）の進行度合いを示すもの

4. 弘前大学との共同研究

弘前大学は、全世代の人々が生きがいをもって働き続け、心身ともにQOLの高い状態で健康寿命を延伸する、well-beingな地域社会モデルの実現を掲げ、文部科学省・国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）」^(注5)の拠点として研究活動を展開しています。



弘前大学



HIROSAKI
COI-NEXT

健康寿命の延伸には、健康維持や早期発見のため、健康と病気の間概念である「未病」の段階で手を打つことが重要となります。この「未病」状態に着目した研究に取り組むため、当社は弘前大学と、2018年に共同研究講座（未病科学研究講座）を開設し、「未病予測モデル研究」と「未病教育研究」の二つの共同研究に取り組んでおります。

(注5) 大学等が中心となって未来のありたい社会像（拠点ビジョン）を策定し、その実現に向けた研究開発を推進するとともに、持続的に成果を創出する自立した産学官共創拠点の形成を目指す産学連携プログラムプログラム詳細：<https://www.jst.go.jp/>

以上